

一、次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

家族の機能

社会学者のタルコット・パーソンズはその著書『家族』の中で、家族の中心的な機能として「子育て」と「大人の情緒安定」のふたつを指摘しました。ア 若い夫婦にとつて大人の情緒安定という面では、両親が介在せず、自分たちふたりだけで顔を合わせていることが最も情緒安定につながるだろうと判断したのでしょう。ここでいう自由とは自分たちの気持ちの安定に対する配慮です。このとき、育児のほうにまではあまり配慮がなされなかつたようです。あとの節でA述べるように、育児を考えたら、①三世代家族のほうが便利なのですから。

ともあれ、ここで言いたいことはふたつあります。ひとつは、「核家族はモダンなもので、近代化が進めば、どんどん核家族化が進んでいく」というような単純な、方向性のはっきりしたものではなくて、今のところ「自分としてはそちらを選択したい」という程度の不確かな意識で人びとが①二世代家族を選んでいくということです。

もうひとつは、理想としての三世代家族、現実選択としての二世代家族（核家族）という不安定さ、そして二世代家族の不確かさという矛盾を私たちは抱えており、②この矛盾が、家族の重要な機能である「子育て」の局面になって集約的に出てきているということです。

現状の矛盾をどう解決するか

「子育て」をする母親に、周辺の人たちはしばしば「おじいさんやおばあさんがいればよいのにね」という言い方をします。

しかし、二世代家族を選んでおじいさんやおばあさんを家族から除外したということは、イ おじいさんやおばあさんが家族の中で持っていた機能（働き）も手放したということなのです。この機能は大きくは、「経験」と「労働力」の二点にまとめられます。

おじいさんやおばあさんは子育ての経験を持っています。それに対して新しく子どもを産んだ二世代の母親は、その経験を持っていません。経験の中心は③ノウハウです。このノウハウ不足の不便は誰でも痛感していることですから、『サザエさん』のマンガにもよく登場します。

たとえば、波野タイ子さんがイクラちゃんを産んだばかりのころのマンガで、④近所のおばあさんがタライでイクラちゃんを洗う方法について、水の中で柔らかいものを触るノウハウをタイ子さんに伝授しています。「あたしや 八人のこどもに ゆをつかわしてきました」とそのおばあさんが言いながらイクラちゃんを湯につけています。そこに窓の外からおじいさんが「さしず するわけじゃないが」と口を挟みます。「あつしや 四十年かん 水のなかで やわらけえもの いじりつけてまさあ」と言つて、今にもウンチクを言い出しそうです。そのおじいさんが豆腐屋だったというのがオチです（十五巻(注1)）。

もうひとつの労働力という点ですが、三世代家族のおじいさんやおばあさんは、戸主夫婦を手助けするB貴重な労働力として機能していたのです。いちばん最初に思いつくのが孫の子守りでしょう。これはたいへんありがたい機能です。『ちびまる子ちゃん』のおじいさんである友蔵さんは、まる子ちゃんの子守り役ともいえます。夫婦が自分たちの仕事や家族のための用事をしている間、家事という労働を代行してくれるのも、おじいさんやおばあさんです。子育て以外にも、おじいさん・おばあさんは掃除や整頓をしたり、田舎のほうですとナスやキュウリというような家庭消費費用の小さな作物の生産者でもありました。

コミュニティが担ってきた子育て

こんなふうにおじいさん・おばあさんが果たしてきた役割を並べると、それを今、全部引き受けた二世代家族のお父さん・お母さんは、家族の仕事でパンクしてしまうという感想を持つでしょう。けれども人間というものは、うまい工夫をしているものです。人間がつくる最も基礎的な組織として、家族のほかに⑤「コミュニティ」という組織を形成しています。ほとんど例外なく、どの民族も家族とコミュニティのふたつを持っているのです。

ウ ここで「ほとんど」を入れるのは、きわめて強い社会的衝撃や変動があったときにこれらが崩壊して存在しなくなることがあるからです。また、研究者が家族やコミュニティの定義をきわめて厳格に行つたときには、「これは家族ではない」とか「コミュニティではない」ということもあるからです。Cけれども 一般的には、家族とコミュニティはどの民族にも存在するといつてよいでしょう。

⑥なぜ、私たち人間はこのふたつの基本的組織をつくったのでしょうか。それは、どちらかひとつでは生活上うまく対応できないときに、もうひとつが対応するという「生きる知恵」であったのではないのでしょうか。もちろん、臨時的には、コミュニティという「組織」ではなく、お姉ちゃん夫婦や親しい友人というような「関係」に依存することも可能ですが、こちらはどうしても臨時的措置になりがちです。

つまり、私たちは今、先に取り上げた家族の型の矛盾を、コミュニティというもうひとつの組織に依存する形で、解決しようとしているのです。一般的にいつて、現在、家族の機能は単純化傾向にあります。そのため、⑦国家や都道府県や市町村がコミュニティ強化に乗り出しているのです。意識的か無意識的か分かりませんが、それは、このような基本的原理に基づいているからなのです。かつては家族の大きな課題のひとつである子育て（子どもの世話と教育）の大部分を、コミュニティが担当していました（略）。しかし、ここしばらくのコミュニティは子育てを担当してきませんでしたから、新しい工夫が必要になってきます。

また、家族から「追い出された」といえば語弊があるかもしれませんが、核家族になって、家族からおじいさんやおばあさんがいなくなったため、彼らが担っていた本来の機能を、コミュニティ内に住むおじいさんやおばあさんに期待することになりました。公民館などで「世代間交流」といつて、おじいさんが竹とんぼなどのものづくりを子どもたちに教えるという催しが各地で今、花盛りであることはみなさんもご存じでしょう。

家族の機能が単純化する中で、私たちは今、もうひとつの基礎組織であるコミュニティを強化せざるを得ない状況を迎えています。家族機能の単純化をそのまま受け入れることが、本当にD正しいかどうかはまずひとまずおいて、多くの人びとが長い労働時間を強いられている昨今、負担過剰な核家族夫婦を支えるコミュニティについて私たちは制度設計をする必要に迫られています。

ただ、コミュニティや家族というような生活上の基幹組織は、それぞれの民族の長い伝統があるので、まったく新しい制度や考え方を唱えても一般の人は受け入れがたく、有効性は乏しくなります。エその民族が培ってきた過去の文化を大切にしつつ、新しい時代、新しい環境変化を見据えたコミュニティ論が必要です。それをこれから一緒に考えてゆきましょう。

（注1）マンガのエピソード出典は、すべて文庫版「サザエさん」（朝日新聞社刊）の刊数を表記。

（鳥越皓之 著 『「サザエさん」的コミュニティの法則』より）

問一 空白部ア～エに当てはまる言葉を次から選んで番号で答えなさい。

- | | | | |
|--------|-----------|--------|--------|
| 1 もしろん | 2 したがって | 3 おそらく | 4 たとえば |
| 5 ます | 6 いうまでもなく | 7 なお | 8 かなり |

問二 傍線部A、B、C、Dについて、品詞を答えなさい。

問三 傍線部①について、本文における「三世代家族」「二世代家族」の構成を答えなさい。

問四 傍線部②「この矛盾」について、何と何が矛盾していると筆者は言っていますか。答えなさい。

問五 傍線部③「ノウハウ」とは、何でしょうか。答えなさい。

問六 傍線部④「近所のおばあさん」のノウハウを具体的に答えなさい。

問七 傍線部⑤「コミュニティ」を日本語で言いなさい。

問八 傍線部⑥「なぜ、私たち人間はこのふたつの基本的組織をつくったのでしょうか」の問いに対する答えを書きなさい。

問九 傍線部⑦「国家や都道府県や市町村がコミュニティ強化に乗り出しているのです」について、実施されている取り組みを答えなさい。

二、カタカナ部分を漢字で書きなさい。(送り仮名が必要な場合もあります)

- ① 報告会を モヨオス
- ② 感染症が キユウカクダイ する
- ③ シンセンな 空気
- ④ 食欲が オトロエル

三、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

- ① 迅速 に対応する
- ② 堆積した 土砂
- ③ 解剖学講座を 担当する
- ④ 医療提供体制 を整える

四、() に漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。

- ① 異 () () 同 () ()
- ② 大 () () () 成

小論文問題

題 「コロナ禍の生活のなかで学んだこと」

六百字程度で論じなさい。